


— ラジオ関西「医療知ろう！」に出演予定 —

テーマ 「尼崎アスベスト問題とは」  
船越正信先生(潮江診療所所長・尼崎アスベストの会会長)  
11月19日(土)午後8時5分から10分間  
是非、お聞きください！！



兵庫県保険医協会の医師・歯科医師が、ラジオ番組「寺谷一紀のケンコー法師」「医療知ろう！」コーナーで「感染症予防に大事なことは?」「健康とお口の関係は?」など身近な医療や健康に関する疑問にお答えします。毎週土曜日午後8時02分ごろからは、ラジオ関西(AM 558KHz)をぜひお聞きください。

**寺谷一紀のケンコー法師 医療知ろう!**

毎週土曜日 / PM8:00~9:00  
コーナー / PM8:02~8:12頃  
放送期間 / 2022年10月~2023年3月

ラジオ関西 AM558 FM91.1 AM 558KHz / 1395KHz (東北部) / FM91.1MHz

当日の様子は、放送後でも番組ブログや協会ホームページ(<http://www.hhk.jp/topics/2022/1001-090000.php>)からもご覧いただけます。

＜お知らせ＞

尼崎支部会員の医療機関で、アスベストばく露による疾病が疑われる患者を潮江診療所の船越正信先生(尼崎アスベストの会会長)へ紹介し、その後、被害救済の相談へ繋がっています。



日常診療でアスベスト関連疾病を疑われる患者に出会われた際には、下記までご相談ください。

「アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会」  
連絡先: 〒660-0802 尼崎市長洲中通2丁目1-3

TEL・FAX 共通 06-6489-2600

または、兵庫県保険医協会尼崎支部担当事務局まで

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

427号

2022年11月15日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31  
神戸フコク生命海岸通ビル5階 兵庫県保険医協会 尼崎支部  
TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

“落語&トークのタベ”に80人

仏教・医療から自死防止を考える

落語家 住職 露の団姫さん×高宜良医師がトーク

医療と仏教という観点から自殺を防ぎ、“生きづらさ”の支え方を考えよう。尼崎支部は、地域医療部・文化部と共催で10月1日、協会会議室で「落語&トークのタベ～仏教・医療から考える“生きづらさ”の支えかた」を開催。露の団姫さん(落語家、尼崎市・天台宗「道心寺」住職)、高宜良さん(精神科医・京都市・こう心療クリニック院長)が出演。会員、スタッフ、市民ら80人(来場52人 ZOOM視聴28人)が参加した。

一席目で団姫さんは、高校卒業後に師匠に弟子入りし、厳しい落語の修行をした際のエピソードや、怪談風の小咄、上方落語「地獄八景亡者戯」の一部を披露。「尼の尼さんである私は、落語家としては名人になりたい。僧侶としては自死を減らしたい」とし、会場は和やかな雰囲気包まれた。

高先生は「コロナ禍の自殺対策とネットワークづくりを考える」と題し講演。全国や兵庫県内の自殺の傾向を紹介し、「自殺は無職や、経済的な原因によることが多く、社会的対応が必要」と強調。精神的に追い詰められた人が、自殺以外の自己救済法が見いだせなくなる状況を「心理的狭窄」とし、「『他に選択肢がなく、死

ぬしかない』と思い込んでいる状態から『他にも選択肢があり、生きる意味があるかも』と切り替えられる支援が求められる」「孤立や不眠などの危険因子に注意を注ぎ、生活の立て直しや周囲とのつながりなどの保護因子の強化が重要。そのためにも気持ちに寄り添うだけでなく、専門家への相談や生活援助につなげるネットワークづくりこそが課題」と呼びかけた。

団姫さんの二席目では、高校在学中に裁判を闘うまでのトラブルに見舞われ、落ち込みの激しい時期には自殺企図をも抱いたと自身の経験を紹介。その際に人生の指針となる法華経に出会い、「お釈迦さまも悩みぬいた人間であった」と感じることで気持ちや体調が軽快したこと

(2面へつづく)



露の団姫さん(左)と高宜良さん(右)が自殺対策をテーマに対談した

(1面のつづき)

に触れ、「信仰を持つことも自死に至らない一つの方策かもしれない。抜苦与楽・心の棘を抜くことが住職としてのモットー」とし、正式な天台僧となり、浄財を集めてコロナ禍を乗り越えながら尼崎市内に2021年、天台宗「道心寺」を開いた経緯を述べた。

対談では、団姫さんより「理不尽な仕打ちには正しく怒ることも重要。相談者の中には、怒りを抑圧しすぎている人もあり、我慢の結果、うつ状態になる可能性も否定できない」、高先生より「精神医療にも仏教(禅)の教えが取り入れられており、自身の状態に気づき、先ずはありのままに受け入れることで共通している」などと、仏教・医療両分野からの融合的なアプローチが有効であることが示された。

会場からは「重たいテーマを、面白く温かい雰囲気の中で聞けて良かった」といった感想が出された。やまもと内科クリニック・山本房子先生からの感想を紹介する。



上方落語を披露する団姫さん

< 落語&トークのタベ 感想文 >

## 心の棘を抜く～仏教と医療から～

自分自身を大切にするために宗教を「信仰」することと、昨今、問題になっている宗教への「依存」とは違うのではないかと教えていただきました。

自分より他人を大切に、周囲への配慮を優先することは、良くないこと、うつ傾向になりやすいこともわかりました。

コロナ感染症によるしわ寄せは弱い人のところへ来ています。芸能人の自殺ニュースなどSNSによって競い合い、あおられることは、自死をあおることになりかねないとのこと。コロナや戦争の情報を遮断することが必要なこともあるかもしれません。

露の団姫さんは、釈迦は弟子が自殺した時ノーコメントであったとのことのお話もされました。それは、自分がその死に意味を付けることになるから。意味付けしないことが大切。意味を付けると自分の話になってしまうとのことでした。

「飛行機が怖いなら怖いと素直に表明する」こと、「弱いことを明かしてもバカにされない社会の大切さ」を穏やかに話されました。

お二人の声が美しく澄み切っていること、お話が明快で温かく、本当に心地の良い講演会でした。2時間があっという間でした。在宅医療にも携わっていることから、「死」については日々隣合わせです。

今回の講演により、ますます、心を大切に「死」を意識して「生」を大切にするよう肝に銘じました。

【やまもと内科クリニック 山本 房子】

## 子どもの医療を受ける権利を守るために！！ 最後のお願い

### 中学卒業まですべての子どもの医療費無料化を 求める署名にご協力ください

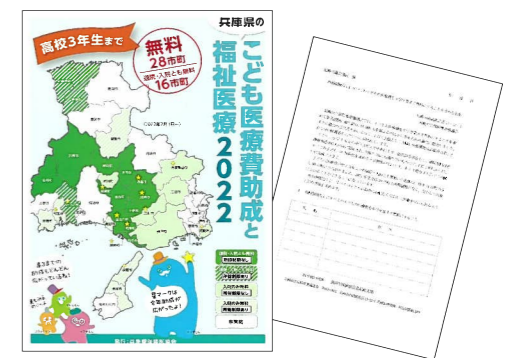


署名は12月に市議会へ提出します(締め切り11月末)

尼崎市医師会におかれても、「今般、市の努力にて無料化が実現したことは喜ばしいが、今後とも躊躇なく医療機関に受診できるように、無償化のための予算を確保して継続していただきたい」との要望書を7月に市長に提出されています。

ご家族、職員の皆様のご協力からお願いします。なお尼崎市外の方にもご署名いただけます。

署名用紙・院内掲示用ポスター・「こども医療費助成と福祉医療2022」パンフレットのご注文は、担当事務局の石本・沖野(Tel 078-393-1805)まで。



<パンフレット・署名用紙>

### － 尼崎市内で市民団体の学習会へ講師派遣 －

## 学習を力に社会保障の拡充を目指そう



参加者から質問が出されて活発に討議された

新日本婦人の会尼崎支部から講師派遣の要請があり、10月15日(土)に、川西敏雄協会副理事長が「尼崎市のすべての子ども医療費の無料化を求める署名運動を進めるために / 社会保障の拡充は経済発展の切り札になる！」をテーマに尼崎市内で学習会を開催し20人が参加した。参加者は、学習会を力にして、更なる署名の積み増しを目指して取り組むことを確認した。